

都市再生整備計画

かす が し ちゅうおう ぶ し み ん かつ どう こうりゅう きょ てん
春日市中央部市民活動交流拠点地区

(第1回変更)

ふくおか かす が
福岡県 春日市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	福岡県	市町村名	かすがし 春日市	地区名	かすがしちゅうおうぶしんみんかつどうこうりゅうきょてん 春日市中央部市民活動交流拠点地区	面積	145	ha
計画期間	令和	6	年度	～	令和	10	年度	
					交付期間	令和	6	年度
						～	令和	10
							年度	

目標
大目標:本市の魅力である「歴史、自然、文化、スポーツ」の要素のすべてを持つことから、市民活動交流拠点を中心に、その魅力と利便性を活かした居住ゾーンを形成する。 ※立地適正化計画と整合した目標 目標1:春日市の中央部に相応しい、多様な人々が交流し賑わう、多機能で魅力的な拠点の形成 目標2:交通結節点と都市機能が集積したコンパクトなまちづくりの推進 目標3:官民一体となった賑わいがあり利便性の高い都市環境の形成
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 本市は、福岡市の南部に隣接し、住宅都市として発展してきたが、長期的には、人口は横ばい又はゆるやかな減少傾向にあり、高齢化も着実に進行している。 このような中、市民活動交流に資する各種公共施設(社会福祉エンター、老人福祉センター、人権男女共同参画消費生活センター等)については、市内に点在し、高齢化する市民のアクセス向上と、施設の老朽化に伴う維持管理費の増大が課題になっている。 こうしたことから、これらの公共施設を、市内全域とつながるコミュニティバスセンターが位置する市中央部に集約することで、利用者のアクセス向上と更なる市民活動交流の活性化を図る。 また、施設の集約に当たっては、民間活力の活用も検討し、単に既存施設の集約にとどまらず、「誰もが行ってみたい」「また行きたい」と思えるような新たな魅力の付加に取り組む。これにより、本地区全体の魅力を高め、本地区にある既存の文化・スポーツ拠点(ふれあい文化センター、総合スポーツセンター)の利用促進にもつなげ、市民の豊かで健やかな生活の実現に寄与していく。 なお、公的不動産の活用については、「春日市公共施設マネジメント計画」において、社会経済状況や時間の経過によって変化する市民ニーズを的確に捉え、施設の複合化・集約化に取り組み、施設規模の適正化に努めるとともに、廃止した公共施設や不要と判断された施設は、民間活用や売却を推進し、施設の利活用を検討するとしている。
まちづくりの経緯及び現況 本地区は、本市の中央に位置しており「第2次春日市都市計画マスタープラン」(令和3年9月)では「市民活動交流拠点」として位置づけている。ふれあい文化センター、総合スポーツセンターの他、コミュニティバスやよいのバスセンターも存在し、周辺の幹線道路沿道には商業施設も多く集積している利便性の高いエリアである。周辺には諸岡川や寺田池、大谷緑地の他、日本遺産に指定された特別史跡水城跡も存在している。 一方、人口密度は高いものの昭和50 年前後に形成された古い住宅地も多く、一部で空き家も見られる等人口減少が進みつつある地域でもある。 「市民がまんなか」のコンセプトをもとにした市民活動交流拠点の更なる強化促進を地域重点プロジェクトのひとつとして掲げており、文化・スポーツ施設等の既存の公共施設の利用促進に加え、多機能の公共施設等の集約化を図るとともに、利便性の高いコミュニティバスの活用により、誰もが行きやすく行きたくなる市民活動交流拠点の形成を継続的に進めることとしている。
課題 本地区の人口密度は40人/ha以上となっているが、人口減少傾向が進みつつあり、住環境の維持・向上を図りつつ、既存のふれあい文化センターや総合スポーツセンターの利便性の維持・向上とともにいきいきプラザや福祉ばれっと館等、その他の公共公益施設との連携強化が課題となっている。
将来ビジョン(中長期) ①第6次春日市総合計画(2021-2030)(令和3年3月策定) ・市民の生活を支える良好な都市空間と生活環境を整え、誰もが快適に暮らせるまちを目指します。(P21) ・交通体系の整備・維持(P23) ・効果的・効率的な行政運営(P23) ②第2次春日市都市計画マスタープラン(2021-2040)(令和3年9月策定) 【将来都市構造】(P8～) ・市民活動交流拠点として位置付け ・春日市ふれあい文化センター、総合スポーツセンター周辺は、各種公共施設が集積していることから、市民生活の活動の拠点として利便性の維持・向上を図ります。 【地域別まちづくり方針】(P49～) ・ふれあい文化センター、総合スポーツセンター及びコミュニティバスのバスセンターが集積する市民活動交流拠点を形成 ・コミュニティバスのバスセンターの利便性の向上 ・本地域の中央に位置するふれあい文化センター及び総合スポーツセンター周辺は、必要に応じて多機能の公共施設等の集約化を検討するなど、今後も機能の維持・充実を図るとともに、近接するいきいきプラザ及び福祉ばれっと館との有機的な連携を図り、市民活動交流拠点としての機能強化を図ります。 ・春日市コミュニティバスやよいのバスセンターは、本市の中央部に位置し市内主要施設を結ぶ交通結節点としての利便性向上を図ります。また、路線バスとの乗り継ぎ利便性向上についても検討します。 ・ふれあい文化センター、総合スポーツセンター周辺は、市民活動交流拠点にふさわしい景観形成を図ります。(サインの統一、敷地内緑化、歩行者空間の魅力化) ・総合スポーツセンターは、広域避難場所として防災機能の維持・向上を図ります。 ・市民活動交流拠点の形成(ふれあい文化センター・総合スポーツセンター)の利便性維持・向上及びいきいきプラザ、福祉ばれっと館との有機的連携の強化) ・コミュニティバスの結節拠点(バスセンター)や路線バスとの乗り継ぎ等公共交通全般における利便性向上 ・市民活動交流拠点及び「ふれあい通り」、「すぽーつ通り」を重点的に修景 【地域別重点プロジェクト】(P77) ・「市民がまんなか」のコンセプトをもとにした市民活動交流拠点の更なる強化促進 ③春日市立地適正化計画 ・福祉・文化・スポーツ等の全市民が利用する公共施設の誘導と複合化 ・交通結節機能の強化(コミュニティバスバスセンターの改善)

都市構造再編集集中支援事業の計画							
都市機能配置の考え方 ・本地区は、春日市の市民活動交流の最大の拠点となるため、市域全体の市民活動交流の活性化に資する高次都市機能の誘導を図る。 ・老朽化が進む社会福祉センター、老人福祉センター、人権男女共同参画消費生活センター等の機能を集約し、（仮称）春日市中央部複合施設を整備する。 ・本地区にある大谷ふれあい公園については、廃止するが、同地区内の大南児童遊園を新たに都市公園とし、機能の充実を図る。							
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 既存のふれあい文化センター、総合スポーツセンター及び隣接する公園用地等の公共用地を活用し、社会福祉センターをはじめとした福祉施設等を集約した多機能施設を整備する。あわせて、コミュニティバスセンターの交通結節機能の向上を図り、多様な世代が効率的に利用できる利便性の高い市民活動交流拠点の形成を図る。							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
中央部複合施設で活動する市民団体の数	団体数	中央部複合施設に集約する施設でこれまで活動していた市民団体と比較した新たな複合施設で活動する団体の数	春日市の中央部に相応しい、多様な人々が交流し賑わう、多機能で魅力的な拠点の形成	14団体／年	R4年度	20団体／年	R10年度
イベント・催し物への市民満足度	%	市民アンケートによる中央部エリア内でのイベント・催し物への市民満足度	春日市の中央部に相応しい、多様な人々が交流し賑わう、多機能で魅力的な拠点の形成	65.4%	R4年度	70%	R10年度
コミュニティバスの利用率向上	%	当該エリア来場者のコミュニティバス利用率	交通結節点と都市機能が集積したコンパクトなまちづくりの推進	8%	R4年度	20%	R10年度

計画区域の整備方針	
【春日市の中央部に相応しい、多様な人々が交流し賑わう、多機能で魅力的な拠点の形成】 市域の中央に位置する立地特性を活かし、既存の文化・スポーツ拠点に加え、市内に点在する公共施設を集約する(仮称)春日市市民活動交流センターを整備することで、多機能で魅力的な拠点を形成する。	方針に合致する主要な事業 【基幹事業】(地域生活基盤事業)広場整備事業 【基幹事業】(高次都市施設)市中央部複合施設整備事業 【基幹事業】(誘導施設)市中央部複合施設整備事業(老人福祉センター部分) 【基幹事業】(誘導施設)市中央部複合施設整備事業(社会福祉センター部分) 【基幹事業】(誘導施設)市中央部複合施設整備事業(いきいきルーム部分) 【基幹事業】(誘導施設)市中央部複合施設整備事業(図書館部分) 【提案事業】(地域創造支援事業)連絡通路整備事業
【交通結節点と都市機能が集積したコンパクトなまちづくりの推進】 コミュニティバスのバスセンターが位置する交通結節機能の強化と集約した都市機能の連続性を強化しコンパクトで利便性の高いまちづくりを推進する。	【基幹事業】(高次都市施設)市中央部複合施設整備事業 【基幹事業】(誘導施設)市中央部複合施設整備事業(老人福祉センター部分) 【基幹事業】(誘導施設)市中央部複合施設整備事業(社会福祉センター部分) 【基幹事業】(誘導施設)市中央部複合施設整備事業(いきいきルーム部分) 【基幹事業】(誘導施設)市中央部複合施設整備事業(図書館部分) 【提案事業】(地域創造支援事業)春日市コミュニティバスセンター整備事業 【提案事業】(地域創造支援事業)エリア内道路改修事業 【関連事業】(地域生活基盤施設)駐車場整備事業 【関連事業】(地域創造支援事業)コミュニティバス高齢者無償化事業 【関連事業】(地域創造支援事業)仮設バスセンター整備事業
【官民一体となった賑わいがあり利便性の高い都市環境の形成】 (仮称)春日市市民活動交流センターの整備や本地区全体の利活用に当たっては、民間活力の活かし、賑わいがあり利便性の高い都市環境を形成する。	【基幹事業】(高次都市施設)市中央部複合施設整備事業 【提案事業】(事業活用調査)事業効果検証事業
その他	

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

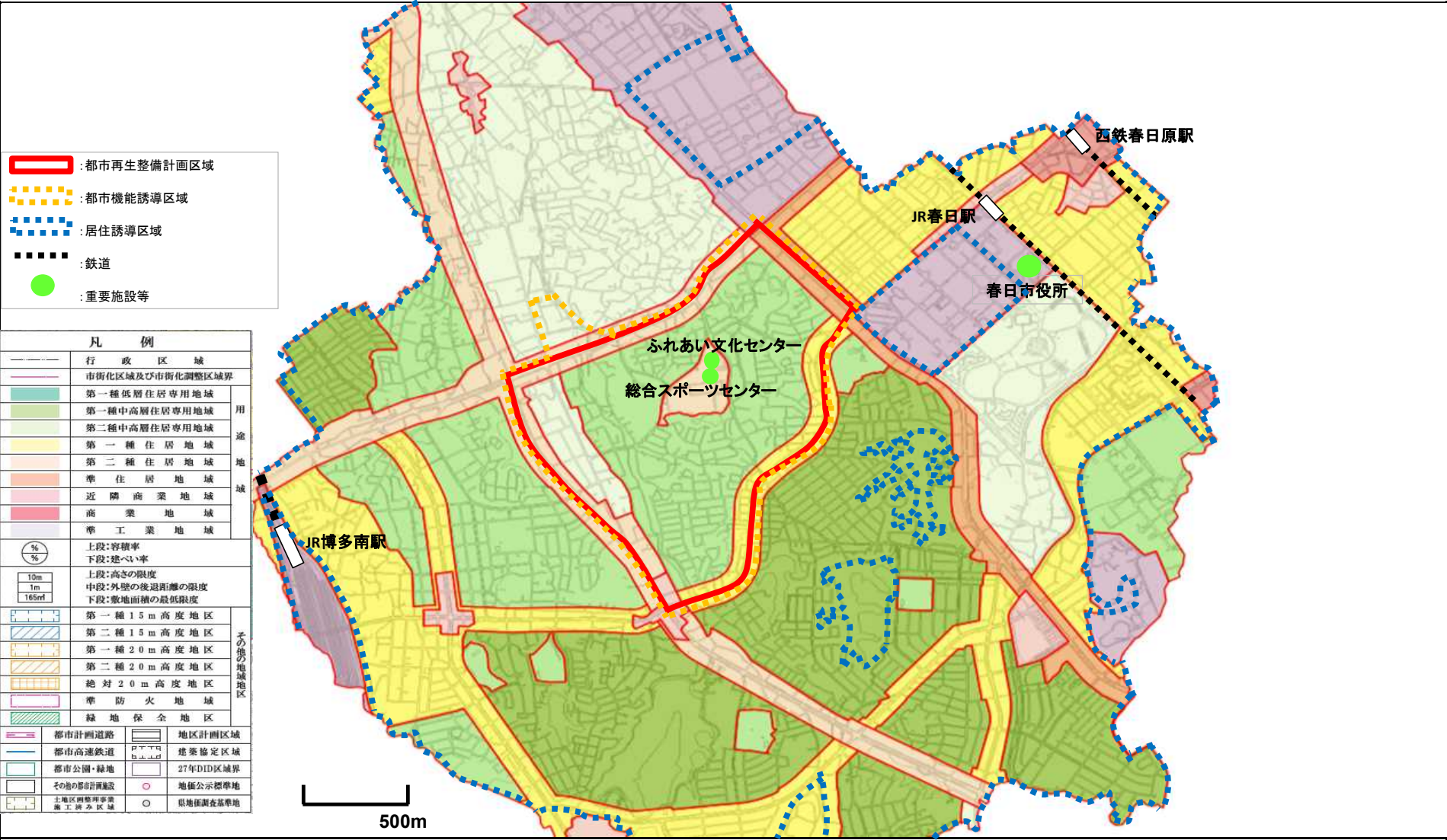
...B

...C

	0
--	---

	1.439
--	-------

春日市中央部市民活動交流拠点地区(福岡県春日市)	面積	145	ha	区域	春日市大谷6丁目、小倉の一部
--------------------------	----	-----	----	----	----------------



春日市中央部市民活動交流拠点地区(福岡県春日市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

様式(1)-⑦-1

目標	大目標: 魅力的なまちの「顔」として、賑わいがあり便利なまちづくりにより市民活動交流拠点を形成する	代表的な指標	市民活動交流拠点で活動する市民団体の数 (団体数)	14団体/年 (R4年度)	→	20団体/年 (R10年度)
	目標1: 春日市の中央部に相応しい、多様な人々が交流し賑わう、多機能で魅力的な拠点の形成		イベント・催し物への市民満足度 %	65.4% (R4年度)	→	70% (R10年度)
	目標2: 交通結節点と都市機能が集積したコンパクトなまちづくりの推進		コミュニティバスの利用率 向上 %	8% (R4年度)	→	20% (R10年度)
	目標3: 官民一体となった賑わいがあり利便性の高い都市環境の形成					

